

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>リンポポ州ベンベ郡マカド地区において、青少年による地域活動を通じて、農村部の青少年を取り巻く社会環境が改善される。</p> <p>(※本事業では11歳以上18歳未満を青少年と呼び、対象とする。)</p> <p>⇒本事業の成果として、DICでの青少年による活動が活発化、継続的に行われており、それに対する青少年同士あるいはDICボランティアによるサポート体制が作られた。また保護者や学校等、地域内の関係者と子どもの問題解決にあたるなど地域内の協力体制もつくられ始めている。また、ボランティアと青少年による啓発活動や学校での青少年らの行動変容を見て新しく通い始める子どもが事業後半から増え始めている。このように、青少年の地域活動を通じた変化が地域にもたらされる一方、それをサポートする地域関係者が増え始めている、将来的な青少年を取り巻く社会環境改善の芽が見えてきている。</p>
(2) 事業内容	<p>(A) DIC 活動へのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2016年2月4～5日・25～26日、4月14～15日、5月12～13日、6月9～10日、9月15～16、11月10～11にメンターとして事業実施提携団体のKeep the Dream(KTD)が訪問し、モニタリングを実施、DICにおけるプログラム改善の指導に当たった。</li> <li>● 2、3月に各1回ずつ、近隣の中高一貫校において、DICボランティアがHIV/エイズ啓発の授業を受け持った。</li> <li>● 4月4～8日にかけて、子ども向けプログラム(11歳以上)実施研修上級編に12名のDICボランティアが参加した。</li> <li>● 4月12～13日、NGO・Lamulani CBOが訪問し、DICの理事らに組織のガバナンスについての指導を行った。</li> <li>● あわせて4月14～15日にLamulaniにより行われた子どもの人権(虐待の対応方法など)に関する研修に、DICボランティア12名が参加した。</li> <li>● 6月22～23日、JVCがプロジェクト・マネージメント研修を10名のDICボランティアを対象に実施した。</li> <li>● 6月24～26日、子ども向けプログラム実施研修初級編に、2016年よりDICのボランティア活動を開始した3名が参加した。</li> <li>● 2016年10月3～7日、子ども向けプログラム(10歳以上)実施研修上級編に8名のDICボランティアが参加した。</li> <li>● 9月3日、DICボランティアが企画して、村の住民を対象にHIV/エイズ、性感染症予防に関する地域内啓発活動を実施、61名の住民(子ども・大人)が参加した。</li> <li>● 2017年1月から2月は、毎週金曜日にJVCによるモニタリングを実施した。3月からは頻度を落とし、3月17、24日、5月5日、19日に実施した。5月には、3月の経験交流(活動(E))でファシリテーターを務めたNAN HAU FOUNDという団体(KTDのパートナー団体)スタッフがプログラムの指導にあたった。</li> <li>● 前年度に続き、3月より再び活動地住民による抗議行動が起こり、DICや学校が閉鎖、JVCが村に入れない事態となった(3.(1)参照)。これを受けて、4月24日、青少年が村外で行える活動についてDICボランティアと検討した。</li> </ul> <p>(B) 経験交流(DICボランティア対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2016年4月4～8日に実施した子ども向けプログラム現地研修を通し、他地域のDICとの交流、意見交換を図った。</li> <li>● 10月19～20、青少年活動の活発な団体(Akonhoek)をDICボランティア</li> </ul>

10名が訪問した。

- 12月3日、DIC ボランティア 4名、94名の青少年・子どもたちが DIC プログラムのモニタリングを実施している KTD の活動地を訪問した(ボランティア+青少年対象)。

(C) 青少年活動へのサポート

- 2016年2~4月にかけて、毎週金曜日に青少年が DIC に集まり KTD に学んだプログラム活動を継続して行った(5月~8月は抗議行動などの影響で不定期となった)。
- 6月27日~7月1日にかけて、ユースリーダーシップ研修を実施し、22名の青少年が参加した。
- 7月11~13日にかけて、環境教育と子どもの権利研修に、33名の聖書年が参加した。
- 7月13~15日にかけて、「ボーイズ・トゥー・メン(少年から男性へ)」という男子向けの研修に19名、「セックスとセクシュアリティ研修」に14名の女子が参加した。
- 10月以降、DIC 環境改善としてセンターの建物の修繕を行い、近隣の中高一貫校と協力して、コンピューター学習室を学校内に設置した。
- 10月15日、青少年と DIC ボランティアが企画し、HIV/エイズに関する地域内啓発活動を実施、約80名の子どもたちとその保護者ら合わせて約100名が参加した。
- 3月4日、4月27日、11月9日、17日、24日、青少年ら自身が企画し、地域内奉仕活動を行った(高齢者のサポート、障がい者支援を行う団体の訪問、村の道の修繕、村内託児所の修繕、苗づくりなど)。
- 2017年3月10~12日、青少年活動の活発な団体(Akonhoek+その他)の青少年との経験交流を実施、ボドウェ村から約50名の青少年が、合計約80名が参加した。
- 5月1日、4月24日の話し合い(活動(A))を受けて、近隣の村の DIC を訪問、MAN HAU FOUND を招へいし、各 DIC の活動を披露・経験交流し、また HIV/エイズに関するテストを実施し、啓発について学んだ。

(D) 教育者、保護者を対象とした意識啓発

- 2月25~26日、5月12~13日、9月15~16日、DICに通う子どもたちの保護者向け研修を実施し、延べ約50名が参加した。
- 9月9日、DIC ボランティアの企画・主導で、保護者会を実施、17名が参加した。HIV/エイズの問題、子どものケアの方法、保護者の対応の重要性について話し合われた。
- 教員向け研修については、抗議行動により長期間学校が閉鎖されたことにより、本事業期間内に実施できなかった。

(E) 青少年世帯を中心とした家庭菜園研修の実施

- 3月18~19日(21名)、4月18、19日(24名)、青少年を対象に菜園研修を実施した。家庭で菜園を作ることが宿題として出された。
- 5月23~24日、6月17日、7月27~29日、ストライキの最中だったが、村に入れるタイミングを見て、菜園づくり実施状況を確認するためにモニタリングを実施した。7月には研修を受けた21名に加えて、自分で真似して始めたという9名を訪問した。
- ストライキ終了後の9月10日、再度研修を実施、24名の青少年が参加した。3、4月の研修の復習として、菜園のデザイン、混作、マルチ、有機たい肥、土壌改善などについて学んだ。
- 9月24日、食育に関する研修を実施した。別の周辺村の青少年も招待し、合計48名の青少年が参加をした。
- 10月29日、ボドウェ村から23名、別の村から14名の青少年が参加し、

	<p>液肥と堆肥の作り方に関する研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 11月24日、30日、12月2日、7～9日、19～20日、23日、27日、2017年2月7日13日、21日、3月6日、9日、14日、4月13日、17日、20日、5月3日、菜園づくり実施状況のモニタリングを実施した。なお、11月以降は、村内ファシリテーターの協力を得ながらモニタリングを実施している。</li> <li>● 2017年2月25日、3月3日、2017年度より新しくDICに通い始めた青少年を中心に約50名に、液肥、防虫管理の方法等に関する研修を実施した。</li> </ul>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><u>成果1：10代の青少年が自らの社会環境の改善を目指して活動するための場・基盤が地域内に整備される。</u></p> <p>⇒1-A. <u>ボドウェDICにおいて、年齢別のニーズに合わせた活動が定期的に実施されている。</u></p> <p>DICボランティアが年齢別ニーズに合わせたプログラムやサポートを提供できるようになり、青少年たちがボランティアに教えてもらうあるいは研修での学びを通じて、DICで定期的に様々な活動を行うようになった。</p> <p>⇒1-B. <u>ボドウェDICボランティアが、青少年が行う活動を日常的にサポートしている。</u></p> <p>これら活動がない日でも青少年は継続的にDICに通い、勉強を教え合うようになった。そのなかで、わからないことはボランティアに聞くなど、信頼関係・体制ができていく様子が日常的に観察されている。また、学校や保護者、DICが協力して子どもの課題対応にあたる事例が確認されるなど青少年を地域でサポートするための素地が作られ始めている。</p> <p>⇒1-C. <u>ボドウェDICにおいて、青少年同士の「ピア・サポート体制」ができていく。</u></p> <p><u>青少年らがコミュニティ内で啓発活動を行うなど活発になったことを受けて、活動期間中に約50名の青少年が新しくDICに参加し始めた。</u>これらの青少年に、本事業下で学んだ知識や情報を伝えている様子が確認されている。また、例えば、体調を崩した青少年の病院通いを他の青少年らがサポートする、年長の青少年が勉強を教えるなど、さまざまなレベルで青少年同士のサポート体制が見られ、日常に定着していることが確認された。さらに、年少の子どもたちも本事業下での学びを伝えるなど、世代を超えて情報や知識が受け継がれていく事例も確認された。⇒1-D. <u>ボドウェDICボランティアが先行経験を持つ他団体に必要に応じて相談する事例が最低2件確認される。</u></p> <p>2件のみならず、日常的に電話で相談していることが確認されている。</p> <p><u>成果2：青少年が自らを取り巻く社会環境を理解し、変化を生むための行動を開始している。</u></p> <p>⇒2-A. 青少年が社会環境の課題解決に対する自らの役割を認識している。</p> <p>青少年らが、DICに通う子どもと自分らとの違いとそのことによるDICの意義を明確に認識し、学校等で自分が「モデル」となる可能性を感じ始めている。また事業終了時点で、自分で地域内のHIV予防啓発を計画する青少年が見られるなど、変化を生むための行動を開始始めている。</p>

	<p>2-B. ボドウェ DIC において、青少年による活動が日常的、継続的に行われている。このことは、以前は DIC に来ることを恥じていた青少年が、活動を通じて、同級生らに DIC に参加するよう呼びかけるようになった事例からも確認されている。</p> <p>⇒2-B. ボドウェ DIC において、青少年による活動が日常的、継続的に行われている。</p> <p>1-B. で確認したとおり、日常的かつ継続的に行われている。</p> <p>⇒2-C. 青少年が彼らの抱える課題に関する啓発活動を地域内で実施している。</p> <p>1-C. 参照。また、数例ではあるが、HIV 感染した青少年が予防啓発を行うなど確認されている。</p> <p>⇒2-D. DIC ボドウェに保護者会が設置され、青少年活動への協力や課題対応事例が最低 2 件確認される。</p> <p>「保護者会」という形では設置されなかったが、青少年活動への協力(研修修了証の発行に費用が必要とされる際に支払えない青少年分を別の保護者が負担を申し出るようになるなどの)事例が、日常的に、2 件以上確認されている。</p> <p>⇒2-E. 学校の教育者、保護者、その他地域内の関係者による、青少年活動への協力事例が最低 2 件確認される。</p> <p>学校の給食用食料を学校が DIC に提供する、教員と青少年らに関する情報交換が日常的に行われる、DIC に通う子どもを中心につくられたサッカーチームの遠征費用を村内の保護者が負担する、青少年の ARV 服薬をサポートするなど、さまざまな協力事例が確認されてきた。</p> <p><i>成果 3 : 青少年が農村部において家庭菜園活動により生計を立てる可能性を見出している。</i></p> <p>⇒3-A. 青少年を中心に、DIC に通う子どもの 20 世帯が家族で家庭菜園を実施している。</p> <p>約 55 名の青少年のほぼ全員が家庭菜園もしくは DIC の敷地を利用して菜園を作っている。このうち約 25 名は、過去一年以上にわたり年間を通じて菜園を作るようになっており、保護者らからの証言からも実際に家計のサポートになっていることが確認されている。</p>
(4) 持続発展性	<p>DIC の活動が青少年・ボランティアの協力体制で活発に行われ、それが住民や学校に認知され、通う子どもが増え始め、新しく通い始めたあるいは年下の子どもたちに、本事業で学んだ知識が伝えられている。</p> <p>ボランティアたちが助成金申請など恒常的な DIC 運営に取り組み始めた。また、学校や保護者らと課題がある子どもの問題解決にあたる事例が確認され、地域内関係者との協力体制も見られるようになった。</p> <p>これらは成果の持続発展につながる。今後は、不定期なモニタリングを通じて、必要に応じてフォローアップを行い、様子を見守りながら持続性をより確実なものにしていく。</p>